

情報かわらばん『ホルムアルデヒドによる滅菌装置』の記事

ホルムアルデヒドによる 滅菌装置

また、中央材料室では高圧蒸気と低温蒸気ホルムアルデヒド滅菌の両方を選択できるハイブリッド滅菌器、LTSFを道内で初めて導入した。

「国内ではまだエチレンオキサイドガス（EOG）滅菌が主流ですが、滅菌の先進国であるヨーロッパではすでにホルムアルデヒド滅菌が主流。ホルムアルデヒドはいわゆるホルマリンのことで、滅菌剤として、微生物を殺滅する作用があります」と中央材料室の岡部巖第1種滅菌技師。

ホルムアルデヒドは水（水蒸気）との親和性が高く、EOGに比べ滅菌物に付着した成分の除去時間を大幅に短縮できる点が特徴。「EOGは滅菌に四〜五時間、滅菌後のガス抜きに約二十時間を要しましたが、ホルムアルデヒドは滅菌が約四十五分で済み、水蒸気で拡散、廃棄すれば約七時間で残留をほぼゼロにできます。このため、滅菌の作業効率が飛躍的に向上しています」。

同機種は滅菌物の特徴に合わせた温度設定が可能だが、同病院では五十五℃の低温設定とし、高温殺菌できないシリンジやチューブなどのプラスチック素材、内視鏡用のカメラや鉗子などに活用し、使い分けを行っている。ホルマリ



導入したばかりのLTSFと岡部さん

ンボトルは一回の工程で使いきり、ボトル内の洗浄も自動的に行われるため、作業者は溶液に直接ふれることなく安全な操作が可能となっている。